

会報

# 熊本県日中協会

平成30年  
8月発行

発行  
熊本県日中協会  
会長 小野 友道

事務局  
〒860-0846  
熊本市中央区城東町4-2  
熊本ホテルキャッスル2F

Tel 096-356-4847  
Fax 096-325-2829

通刊101号

～さらなる友好の絆を～

熊本県日中協会平成30年度総会が7月30日、熊本ホテルキャッスルで開催されました。



主催者挨拶をする  
小杉直副会長

ご来賓の中華人民共和国駐福岡総領事館の孫忠宝副総領事と熊本県商工観光労働部の中川誠審議監が祝辞を述べられ、鬼海洋一議長の



議長を務めた  
鬼海洋一理事

進行で議事に入りました。前年度の事業・決算・監査報告、今年度の事業計画・予算が審議・可決され、3号議案の役員選任では、米満弘之会長のご勇退に伴い、小野友道副会長を新会長に選出、満場一致で可決承認されました。

総会終了後には、熊本県国際課による講演会を開催、県と市が共同運営する熊本上海事務所の新代表を務められた県国際課の吉田二浩課長補佐の「熊本県の中国での取り組み」をテーマとした話がありました。その後は会場を隣の部屋に移して、懇親会が開催されました。(詳細は2、3面)

孫中華人民共和国駐福岡副総領事の挨拶から大連の友達夫妻を今年九州に案内。「中国人に優しく接してくれる日本人」に夫妻は感激。心を開いた交流は中日関係の改善に大事です。

## 米満会長が勇退 後任に小野副会長選ぶ

### 平成30年度 総会



平成30年度の総会が行われたホテルキャッスルの会場



会長に選出された  
小野友道氏



祝辞を述べる県  
商工観光労働部  
の中川誠審議監



中華人民共和国  
駐福岡総領事館の  
孫忠宝副総領事

#### 主な事業計画

日中交流の推進事業

会報の発行

協会運営の活動強化

第37回熊本春節祝賀会の開催

交流会等の実施

日中交流功労者への感謝状贈呈

県中国残留孤児等対策協議会への協力

など

## 第25回 熊本国際交流祭典

2018 11/24 (土) 11:00~16:00

健軍商店街「ピアクレス」

日中協会はグルメ部門に参加して、手作りのワンタンスープや中華菓子を販売します。是非お越しください。

# 新会長抱負



小野友道新会長

「会長に就任して、この度、小生、米満弘之先生のご勇退を受けて第8代会長にご指名頂きました。

昭和47年の日中国交正常化の年に本協会は誕生致しました。その理念の原点は孫文と宮崎滔天の交流にあります。就任に当たってこ

## 新規「10人10法人」勧誘を目標

の歴史を忘れることなく、そして民間交流の重要性を今こそ再認識しておきたいと思えます。

「真の賢沢というものは、

ただ一つしかない。それは人間関係の賢沢だ。」とは「星の王子様」のサン・テグジュベリの言葉です。日中の団体、個人それぞれ

ど得意な分野で積極的にご活動下さり、日中交流の益々盛んになりますことが本協会活動の基盤であります。さて、本協会の運営は法

れぞれ10口増やすことに努力する所存です。どうか会員皆さまには、お一人でも本協会にお誘い下さり会員増強へのご支援を頂きたくお願い申し上げます。

を日本語に変え、日本商品を強調。子供に魅力のあるものにデザインしたり。補助金制度も設けている。ショッピングモールからくまモンを活用した店の開設協力依頼があった場合、経費が不要なため積極的に参加。好評なのは展示会だけだった県産品を継続的に売る努力も。

## 新会員も交じって なごやかに懇談

総会懇親会

総会・講演会の後は恒例の懇親会です。

すぐに崎元達郎熊本保健

科学大学学長の乾杯の音頭



懇親会場の様子



崎元達郎熊本保健科学  
大学学長の音頭で乾杯

り、次々と会員らがスピーチを行い、和気藹々の会員相互交流会となりました。

でスタートし、食事を楽しみながら、今年度の新役員と新入会員が挨拶。

その後は司会の指名によ



資料をスクリーンに投影しながら  
講演が行われた

## 県産品販路拡大を推進 中国からの誘客に力注ぐ

県国際課

講演要旨

県庁内に平成25年から県海外展開推進本部を設置。各部署での取り組みを一本化する役目を担っています。

世界に広がる海外拠点、くまモンを活用して世界をひきつける、販路拡大、世界をつかむ知事のトップセー

空港、港などの整備



吉田二浩氏

吉田氏は平成23年から27年まで上海事務所にて初代首席代表として赴任。現在は熊本県国際課

上海に平成23年、香港に同27年、シンガポール・台北に同25年に各事務所を開設。県産品の販路拡大のために、ブラッシュアップ事業を展開。中国市場への売り込みにパッケージの文字

中国からの誘客は震災前より17・2%減少。九州の他県と協力して宿泊者の増加に取り組んでいます。広西壮族自治区との取り組みでは、今年七月に友好訪問団を派遣、震災見舞いのお礼を伝えたり、青少年の交流を目的とした高校生派遣も行う。

### 主な講演内容

1. 県産品の販路拡大
2. 誘客
3. 広西壮族自治区との友好交流
4. 熊本上海事務所



中国向け新規開発商品



総会懇親会

笠愛一郎常任理事  
(熊本県商工会  
連合会会長)



新役員



上野淳常任理事  
(株式会社熊本放送  
代表取締役社長)

中国通の田尻善裕  
熊本市議会議員



新会員



餃子作りが得意な  
趙麗娜さん

崇城大学国際交流  
センターの大久保  
美衣課長

熊本太極拳クラブ代  
表の荒木ひとみさん



肥後古流松風会の  
西田田鶴子さん



スピーチした会員の皆さん

熊本市北部国際青年交  
流会の上村勝代さん



熊本ホテルキャッス  
ルの斎藤隆士代表取  
締役社長



熊本県中国残留孤  
児等対策協議会会  
長、元参議院議員  
の三浦一水氏

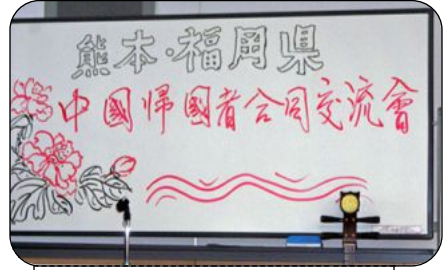


故郷の話に花が咲き  
中国の歌や踊りで盛り上がる

熊本県中国残留孤児等対  
策協議会(中対協)主催の  
「熊本・福岡県中国帰国者  
合同交流会」が5月31日、  
福岡県春日市で開催されま  
した。  
熊本の帰国者40名が貸し  
切りバスで春日市のクロ  
ーバープラザに出向き、福岡



秋岡廣宣常任理事(熊本県経営者協会会  
長)の一丁締めで楽しい会はお開きに



福岡の帰国者がホワイトボードに  
手書きしてくれた交流会のパネル



おしゃべりにも花が咲きます



手作りの民族衣装で  
踊りはヒートアップ

の帰国者と総勢百余名での  
大交流会です。  
初めは緊張して固くなっ  
ていた参加者たちも、次々  
に披露される歌や踊りを見  
ながら少しずつ打ち解け、  
同じ境遇の者同士での苦勞  
話や故郷の話など、中国語  
でのおしゃべりを楽しみま  
した。  
最後には全員で中国東北  
地方の秧歌(ヤンガウ)を  
踊って大盛り上がり。再会  
を誓って熊本の帰国者は帰  
りのバスに乗り込みました。



故郷を思い出す秧歌舞(ヤンガウ)



熊本の帰国者たちは行  
きのバスの中で練習し  
た中国の歌を披露

熊本県日中協会は中対協か  
ら業務委託を受けており、  
これらの活動を通じて中国  
帰国者を支援しています。



# 香港

## 見て歩き

### マカオ

理事小串 照彦

### マカオ編

今年三月一日から3泊4日の香港・マカオの旅(熊本県のチャーター便企画)3日目は元ポルトガル領のマカオです。

香港から約一時間、高速



聖ポール天主堂跡 17世紀初頭、イタリア人宣教師が設計した東洋一壮麗な協会。1835年、火災により正面壁を残して消失。地下室には日本人の遺骨も安置されている

船は全席指定。驚いたことに香港、マカオの出入りは出国扱い。外国並みにパスポート提示、書類提出が必要で。

ポルトガルの雰囲気が残るマカオで、最初に案内されたのは、世界遺産の聖ポール天主堂跡です。マカオのシンボリック的存在で、撮影スポットです。八つの広場、二十二の歴史的建造物が「マカオ歴史地区」として世界文化遺産に登録されました。

ヨーロッパの香りたちこ



セナド広場にある民政総署。ポルトガルの趣きが漂う建物です

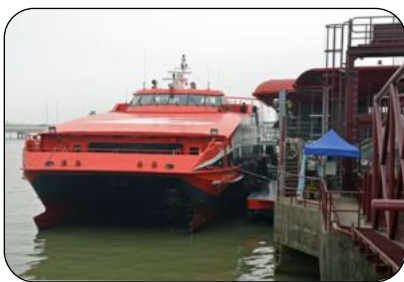
## 『入出国』は今も厳格 ポルトガルの香り漂う

めるセナド広場も世界遺産、路地のタイルは分厚い石が敷き詰められ、春節を祝う提灯の吊り下げはこの日が最終日で幸運でした。初めてのカジノにも入店、強面の「おじさん」が所々に監視する中、さすがに賭ける勇氣は出ませんでした。マカオは元々、半島でしたが砂洲が堆積し、埋め立てを繰り返して中国本土の



媽閣廟 マカオの地名がついたとされる道教の寺院

珠海経済区につながり、さらにタイバ島とコロアネ島を橋で結び、総面積二十八・六平方<sup>キ</sup>は東京都品川区と同じ。総人口五十二万人は一つの国としては世界一の人口密度。返還から十九年経っても、香港同様、中国語は広東語のみ。日常はポルトガル語とが言語。異國を感じさせる旅でした。



マカオと香港を結ぶ超高速連絡船



離島は長大橋で連絡



セナド広場(議事亭前地)モザイクのタイルを敷き詰めたマカオを象徴する広場

## 編集後記

今年三月、県のチャーター便で香港・マカオの旅をした時のこと。学習した中国語の練習が出来ると期待していましたが、空港でもお店でも相手の反応は身振り手振りに「わかりません」よく調べてみると、通じるのは中国語でも声調が六声の広東語。私が使った中国語は標準語で全く発音と抑揚が違う四声の北京語。

因みに香港は一九九七年、マカオは一九九九年にそれぞれ、英国とポルトガルから中国に返還され、それまで使っていた英語、ポルトガル語、そして広東語も公用語として残っています。

返還から二十年前後経った今も、中国本土への往来はパスポートが必要で、言語の流入も一種の障壁があるのでしょうか。日常会話の広東語も、香港、マカオで、当時の面影を残した歴史的建造物の伴侶の様に、観光地や住民生活の中で生き続けているのです。

(機関紙編集委員会  
・小串 照彦)